



来年に備えて 準備を

茶



農業経営支援課
福手 裕三

翌年一番茶の母葉となる三番茶芽（四番茶芽）は十分に伸育していますか？この時期は、**春から夏にかけて新芽の摘採で消耗した樹勢を回復し、来年に備えた母体づくりをします。**茶樹は、一般に地上部と地下部が交互に生長する傾向が見られ、葉や芽の伸育が止まると根の生育に移行するので、秋肥の施用が今月の重要ポイントとなります。

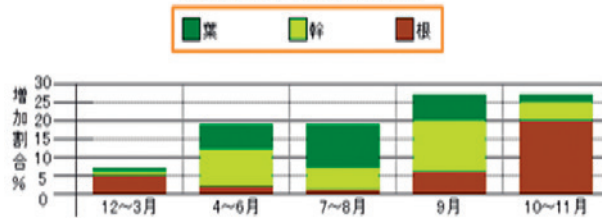
《秋肥の施用》

秋肥は、来春一番茶の良質多収のために重要な基肥です。9月～11月に養分を十分に吸収・蓄積させる事が大切です。肥効を高めるためには、有機質配合を幅広く施用し、土とよく混ぜましょう。下のグラフは葉と幹と根の生長割合です。9月に幹、10～11月にかけて根が多く伸育しています。

《病害虫防除》

この時期の病害虫の被害は、一番茶に大きく影

茶期別茶樹の部位別増加割合



響るので、適正時期に薬剤散布をしましょう。カンザワハダニ・チャノホコリダニは9月上旬ハマキムシ類がダラダラ発生している場合は、9月上旬に防除が必要です。また、クワシロカイガラムシは3回発生地域で9月中旬から防除適期になりますが、秋冬番茶を摘採する方は、使用時期に注意しましょう。

《秋冬番茶と秋整枝》

秋整枝時期は、一般的には平均気温が18～19℃になる10月上中旬です。秋整枝の目的は、摘採面を均一にならし、来年の一番茶に木茎や古葉が混入しないよう、品維持を図るための作業です。来年の一番茶のためにも、9月中に秋冬番茶を摘採する場合は、浅めに収穫し、気温が下がってきた頃に改めて秋整枝を実施するようにしましょう。